
せんちょう

あこがれ千町の会

「あこがれ千町の会」ニュース No.16 2011年11月26日

連絡先 078-857-8267(よりあい向洋)

収穫祭 千町の人達 初参加



10月30日(日)六甲アイランドで収穫祭が開かれました。

千町から17名の皆さんが、朝早くからマイクロバスに乗り、六甲アイランドまで来ました。

千町鍋(鴨肉、豆腐、ねぎなど)は、たいへんおいしくて 大好評で300杯売り切れ、大きな鍋はからっぽになりました。

千町の野菜 大根・白菜・かぶ・人参もよく売れました。また、木うすでついたもち(あんもち・よもぎもち・白もち)も好評で、あんもち518個も完売でした。六甲アイランドの住民の皆さんは 無農薬の野菜や、千町に関心を持ち、新しくできたパンフレットを持って帰りました。



閉店してからは、「よりあい向洋」で交流会をしました。



千町と神戸の参加者をあわせて40名が集まりあちこち話の輪が広がっていました。去年は せっかく準備をしていたのに台風接近で収穫祭が中止になりとても残念な思いをしていたので、今年は千町の皆さんと一緒に販売やおもちを丸めたりできてとても充実した一日でした。皆さんお疲れ様でした。(N)

一宮ふるさとまつり

11月3日、「第34回一宮ふるさとまつり」が宍粟市一宮町のスポニックパーク(伊和神社の北東約500m)で開かれました。子供からお年寄りまで楽しめるイベントとあって、天気も良く多くの人が繰り出していました。千町自治会とあこがれ千町の会も出店し、千町野菜を販売しました。隣のブースでは草木地区(千町の隣集落)が山菜おこわを



販売していました。緑色の^{のぼり}旗を立て^{しまつて}法被を着て、千町や「あこがれ千町の会」をパネルや出来立てのパンフレットを使ってアピールしました。こちらの説明に対して「ああ、あの千町のか………」と応えてくれる方もいて、

販売していました。緑色の^{のぼり}旗を立て^{しまつて}法被を着て、千町や「あこがれ千町の会」をパネルや出来立てのパンフレットを使ってアピールしました。こちらの説明に対して「ああ、あの千町のか………」と応えてくれる方もいて、



若一神社の秋祭り



千町の若一神社の秋祭りが10月14、15日に行われ、神戸支部からも6人が宿泊所に泊まって参加しました。

宵宮(14日夜)は生憎の天気でしたが、雨の中神秘的な「油万灯」の儀式や、舞台の電燈に浮かび上がる獅子舞の一挙一動に感銘を受けました。15日の本宮では雨も上がり村の人たちが見守る中、厳かな神事が行われました。礼服姿の役員が拝殿に参拝し、

三方町・御形神社の宮司が祝詞をあげました。神前には白菜などの野菜が捧げられ、自然の恵みに感謝し、豊作を願いました。その後境内で奉納獅子舞が演じられました。

油万灯と獅子舞の話(昨年の千町ニュースより)

昔、神社の裏山の大段山(966m)の頂上近くにある大沼に大蛇が住んでいて、年に一度村にやって来て娘をさらっていた。大蛇を封じるために、上千町と下千町の間にある小高い丘にたくさんの木を積んで一晩中燃やし続けたら、大蛇は山から下



りてこなくなった—というお話です。その後、火をたく場所は若一神社に移され、たきぎではなく、素焼きの皿に油を入れて灯心を燃やすようになりました。大蛇が下りてくるという話は、風水害や病虫害に襲われることを意味していたのでしょう。「油万灯」は、農作物が元気に育ち、大雨や大風の災害がなく、村の平和が保てるように、という祈りだと思えます。夜の神社にたくさんの灯火が揺らいでいる情景は、神秘的で、幻想的で、豊穡と平安を願う気持ちがひしひし伝わってきました。千町が属している三方地区旧繁盛(はんせ)村では、8つの集落で獅子舞が舞われていたが、毎年続けているのは千町だけになってしまった、ということです。(H)



畑だより

今11月13日(日)沢あん用の大根を約1,500本抜きました。

昨年より全体的に小ぶりでした。

白菜とキャベツの成長がおそく、正月までに結球するかどうか少し心配です。

越冬野菜にチャレンジ

千町の田畑は 冬中雪の下です。野菜栽培はお休みとっていました。だけどモットイナイ。なんとか活用できないか。自然の摂理と野菜の生命力を信じてチャレンジすることにしました。

にんにく 5,000球(立派に芽をだして成長中)

玉葱 7,000球(苗は畑で作りました。移植作業継続中)

ほうれん草 先日種蒔きをして芽をだしています。

たかな 苗をつくっています。近日中に移植



(写真:にんにく畑 No.3)

キャベツ これから苗づくり。成長を抑制して来年二月ごろ移植
春の気温上昇で一気に成長、やわらかいキャベツが収穫できるはず。(M)
(仮定)

あこがれ千町の会の1年余りの活動を通して、私達は いろんなことを考えてきました。村の将来のことを一番深い思いをこめてまとめたものです。 まだ素案ですが、これからみんなで練り上げていきます。

千町の願いと誓い（素案）

1. 千町の自然環境に誇りを持ち、子孫に このまま引き継いでいきます。

千町にあるもの — ぬけるような青空、満天の星空、一面の雪景色、澄んだ水の溪流、高い大きな山の緑、岩塊流、汚れのない大地、四季折々変化する自然美 — これらは、千町の宝であり、私たち住民の誇りです。私達は、この大自然を先祖代々から受け継ぎ 子孫に引き継いでいく責任があります。

2. 村は 農（林）業で生きていきます。

水・空気・土地 汚れのない、きれいな自然環境の千町は 食の生産の最適地です。村は 農業を軸にしてくらしていける所にします。米や野菜をつくり、加工し、自分たちで売っていきます。 山里・山林の恵みを生かす産業を再興します。農林業は協働してこそ成りたつ仕事です。千町は 協同が生き続ける村でありたいと願っています。

3. 21世紀の新しい村づくりをめざします。

千町は 都市の人びとを迎え入れます。都市との交流を深め、結合・融合する村づくりをめざします。みんなでいっしょに休耕田・放棄田を再耕し、米や野菜づくりの みち満ちた田園風景をつくります。村は食の生産を中心とした場であるとともに、協同のくらしの場であり、人間としての自己実現の場です。自然との共生、人と人との協働、村と都市とが融合する21世紀の新しい村づくり、くらしの文化を創造していきます。

4. 村の永続を願い、過疎小集落の人びとと連携していきます。

千年も前から 私たちの先祖が開拓し、耕し、広めてきたこの村の永続を私たちは強く願っています。未来に夢を展望できる村にしていきたいと思えます。同じような立場にある小集落との連携をすすめて、兵庫県・日本から過疎のない地域づくりをめざします。